

沖縄経済同友会

「ガイドと歩く 那覇まちなま〜い」

視察報告書

平成26年9月

主催：観光委員会

1. 視察目的

「那覇まちま〜い」とは、「那覇のまちをぶらぶら歩く」こと。那覇の歴史や文化に詳しいガイドが、古地図や古写真を使ったり、ローカルネタを交えたりしながら、愉快地に楽しくご案内する、これまでにない全く新しいタイプの「体験型観光」です。ガイドブックにないような情報、地元の人にも知らないような話を聞けると大変好評です。

今回、観光委員会では「文化資源を活用した観光振興」について理解を深めることを目的に、(一社)那覇市観光協会様ご協力の下、「那覇まちま〜い」視察を行いました。

2. 参加者名簿

(敬称略)

氏名	当会役職	会社名・役職
出村 郁雄	委員長(常任幹事)	(株)おきぎん経済研究所 代表取締役社長
飯沼 武		三井住友海上火災保険(株)沖縄支店 支店長
伊計 衛		(株)沖縄銀行 常務取締役
系数 淳		(株)琉球新報社 取締役広告局長
河西 雄史	常任幹事	三菱商事(株)那覇支店 支店長
木村 博	常任幹事	三井物産(株)那覇支店 支店長
小林 文彦		川崎重工業(株)沖縄支社 支社長
下地 寛	常任幹事	那覇空港ビルディング(株) 専務取締役
富原 加奈子		りゅうせき商事(株) 代表取締役社長
永多 真	常任幹事	丸紅(株)那覇支店 支店長
花城 忠司		(株)おきぎんジェーシービー 代表取締役社長
水田 正明	常任幹事	フォーモストブルーシール(株) 代表取締役社長
小林 玲子	準会員	三井物産(株)那覇支店 支店長代理
越智 誠	オブザーバー	日本銀行那覇支店 次長
比嘉 正彦	事務局長	沖縄経済同友会事務局
石垣 卓哉	事務局次長	沖縄経済同友会事務局

3. 視察日程

平成26年8月21日（木）18:00～19:00（視察終了後、懇親会）

《プログラム》

●17:50 てんぶす那覇前広場（国際通り沖縄三越向かい）集合

●18:00～ 視察開始

視察コース：那覇の市場（まちぐわ～）迷宮めぐり

【順路】 平和通り→むつみ橋通り→第一牧志公設市場→かりゆし通り→

えびす通り→パラソル通り→ひやみかちマチグワー館

●19:00 視察終了

●19:00～ 懇親会

会場：「琉球料理と泡盛の店 カラカラ」

●21:00 解散



MAP：（一社）那覇市観光協会より

4. 視察の様子



てんぶす那覇前広場に集合。
冒頭、(一社)那覇市観光協会の千住直広マネージャーにご挨拶いただきました。「那覇まちま〜い」を始めて4年目となる。現在、約100コースを開発し好評を受けております。「観光まちづくり」や「滞在型観光の促進」が目的、いずれは那覇だけではなく、沖縄全体にも広げたいとの抱負を述べられていました。



国際通りのど真ん中に位置する「てんぶす那覇」は、平成16年にオープンした施設。「てんぶす」とは方言で「おへそ」の意味。1階に那覇市観光案内所やショッピングエリア、2階に「那覇市伝統工芸館」、3・4階は、沖縄の伝統芸能である琉球舞踊やエイサーを鑑賞・体験できる小劇場を備えた「那覇市ぶんかテンプス館」となっています。以前は「国際ショッピングセンター」が、さらに昔は「アーニーパイル国際劇場」という青空映画館がありました。



写真（国際通り）：(一社)那覇市観光協会より

全長1.6kmの国際通りは、「奇跡の1マイル」と呼ばれるほど、第2次世界大戦で焼け野原となった沖縄の復興の象徴となりました。空港から15分ほどの沖縄県庁を起点として、観光客の方々が賑わう商店街となっています。毎年8月になると「一万人のエイサー踊り隊」というイベントを行っていて、県内で活躍している各地域の青年会が「エイサー」という念仏踊りを踊ります。また、日曜日は歩行者天国になるなど、常に賑わいのある沖縄メインストリートです。



参加者16名を2グループに分けて案内。
第2グループ(8名)の担当ガイドさん(中央の
青いシャツを着用されている方)による挨拶の
後、案内開始。



まず初めに「平和通り」。那覇市を代表する
アーケード街でこの通り入口付近に「平和館」
という映画館があったということで、この名称
になったようです。
1980年にアーケードが設置され、雨が降っ
ても買い物ができるのが好評。



古写真で沖縄の交通状況を説明。
沖縄は、第2次世界大戦後にアメリカ軍の統
治下に置かれ、かつては「車両右側通行」で
ありました。日本車であっても左ハンドルの
「沖縄仕様車」が販売されており、左ハンドル
車が主流となっていました。
1978年7月30日(日)に県下一斉で本土と
同じ左側通行に変更されました。



平和通り入口付近。観光客や地元の人で賑
わっています。
入口付近はお土産店、中に進むと地元客を
相手にした衣料品や雑貨店が見られました。



裏通りをくぐり抜け、「むつみ橋通り」へ。この通り入口にはかつてはガープ川が流れており、「国際通り」をつなぐ「むつみ橋」があったことからこの名称になったようです。ちなみにガープ川は現在、むつみ橋通り沿いの建物の下を流れております。



むつみ橋通りは平和通りと並行に走る通りで、通り幅は狭いものの、時間を遡ったようにゆっくりと穏やかな雰囲気を感じられます。昔からの果物屋さんもあるが、閉められた店舗も目に付き、商店街の建物は、4～60年前に建てられた当初のまま残っているものも多い。



沖縄独自の特産品「サーターアンダギー」を中心に、琉球菓子を紹介していただきました。続いて、向かいの「第一牧志公設市場」に入りました。看板の表示は「入口」のみで「出口」はないそうです。(写真看板参照)



沖縄県民が大好きなアメリカのSPAMとデンマークのTULIPの2大勢力のポーク缶が店頭で並んでいます。直輸入で沖縄には安くで手に入り、沖縄の家庭料理では欠かせない食材となっています。



1階フロアには、鮮魚・食肉・惣菜などが豊富にあります。沖縄の特産品が多く売られているので観光客で賑わっています。県外の肉は牛・豚・鶏が一般的ですが、「山羊」が売られています。



公設市場メインの鮮魚も勢揃いです。お店の人と話をし、値段交渉したり、調理法を聞いたりといった相対（あいたい）売りが楽しめます。



2階フロアは食堂が並んでいます。1階で購入した鮮魚などの食材を2階で調理してもらうことができます。



懐かしの「まちぐわ〜写真展」。沖縄が本土復帰するまでの戦後の国際通りや公設市場の風景を見ることができました。戦後から復帰するまでの那覇の移り変わりが分かり、「あの時はこうだったんですね」と歴史を感じました。



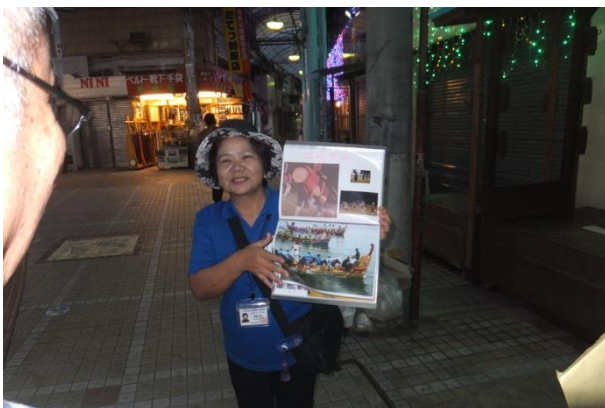
続いて、「ちとせ商店街ビル」。4つの建物が向かい合い、その中央を十字に貫く通路が商店街になっています。食材というよりは婦人服など衣料品のお店が多いようです。ビルの2階から上はアパートとなっているそうです。



裏通りには、沖縄そばのお店が並んでおり、安い店ばかりです。



くちや詰め放題500円！
「くちや」とは「琉球泥灰岩」のことで、その粒子は赤血球より小さく、くちやでパックをすると、毛穴の中まで綺麗に洗い流せるという逸品です。化粧品として商品化されエステサロンでも使用されており、この「土」は日本には沖縄以外には無いそうです。



第2グループをご案内いただいたガイドは、宮城安子さんでした。
最後は、沖縄の最大規模の行事でもある「那覇ハーリー」の写真で締めくくりました。5月3～5日の3日間(GW)、那覇港埠頭で開催される海上での競漕大会。



視察終了後は懇親会を開催し、参加者同士や(一社)那覇市観光協会との意見交換を通じ、お互いの親睦を深めました。乾杯挨拶は出村郁雄委員長(写真左)、お開きの挨拶は観光委員会でお馴染みのメンバー：富原加奈子氏(写真右)。

5. 所感および謝辞

今回の視察参加者は、地元沖縄と本土からの転勤者が半々でありました。転勤者にとっては初めて見るモノばかりだと思われそうですが、沖縄県民でも、平和通りや公設市場等の奥の奥まで理解しているのはそんなにいないと思われそうです。この「ガイドと歩く 那覇まちま〜い」を通じ、食や生活文化に触れながら、地元人も知らない那覇のまちの歴史や変遷について理解を深め、有意義な視察になりました。

しかしながら、かつては地元客で賑わっていたこの繁華街も、駐車場が完備されている郊外の大型商業施設に客を奪われ、観光客向けのお土産店が多くなっています。また、お店を閉じている光景も見られました。再び、この繁華街に地元客を呼び戻す対策が必要だと感じました。

最後に、以下が「那覇まちま〜い視察」にご協力いただいた(一社)那覇市観光協会の皆さまです。

マネージャー	千住 直広 様
コーディネーターガイド	米村 徳子 様
ガイド	宮城 安子 様
ガイド	高良 盛達 様

このたびはありがとうございました。重ねましてお礼申し上げます。

沖縄経済同友会会員・事務局一同